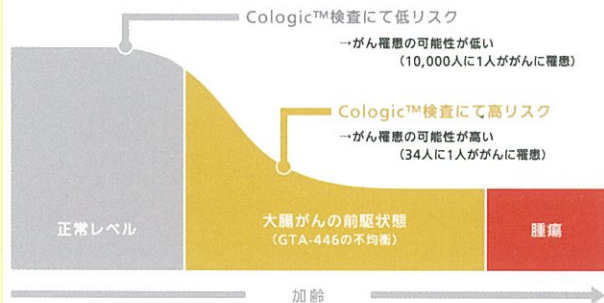


Cologic™
コロジック

Cologic™は早期からの 大腸がんのリスク判定が可能です

健康な状態から、大腸がんにかかる過程で減少するとされる長鎖脂肪酸“GTA-446”という物質を測定しています。高リスクの場合は、低リスクに比べて大腸がんが見つかる確率が300倍高くなります。



気になるチェック項目 こんな人は要注意です

- タバコを毎日吸う。もしくは吸っていた。
- 週に5日以上お酒を飲む。
- 肉料理を好んで食べる。
- 肥満（肥満ぎみ）で運動をしていない。
- 血縁家族が大腸がんになった。

早期発見・早期治療のために

大腸がんのリスク検査



Cologic™
Know your risk.

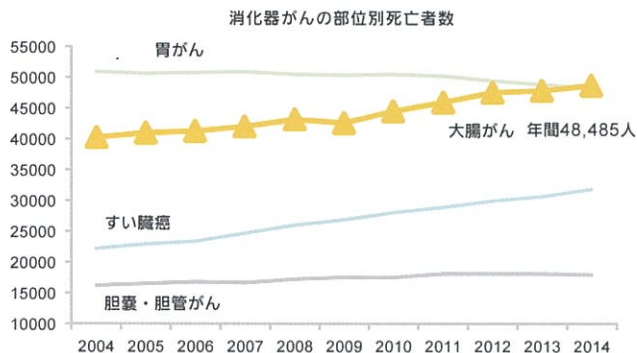
Cologic™
(コロジック)



大腸がんのリスクを調べる血液検査です。

増加する大腸がんの罹患者・死亡者

消化器系のがんの中でも大腸がんによる罹患者数・死亡者数は毎年増加しており、2014年時点での年間の死亡者数は5万人近くいるとされています。



出典：厚生労働省 人口動態統計によるがん死亡データ(2014)

大腸がんの特徴

病状の進行が比較的ゆるやか

大腸がんは、他のがんと比べてもゆっくりと進行するといわれています。突然、大きながんや進行がんができるのではなく、最初は小さな「ポリープ」と言われるものが、だんだんと大きくなりがんになるのです。そのため、定期的な検査を行うことで、早期での発見が可能です。

症状に気づきにくい

大腸がんは他のがんに比べてもその症状に気づきにくいがんといわれています。発生部位により異なりますが通常、便に血が混じったりや下痢や便秘、腹痛などの症状がです。

しかし、それらの症状は自体も初期段階からすぐに出るものではありません。

また、その症状自体も決して珍しいものではなく、普段からおなかを壊しやすい方などは、仮に症状が発生してもがん気づかずに見過ごしてしまいがちです。

そのため、定期的な検査を行いきちんと確認していくことが、大腸がんを防ぐためには重要です。

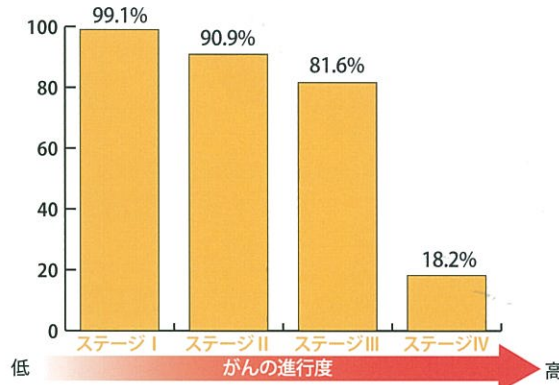


早期発見・早期治療が重要

大腸がんは早期で発見すれば「治るがん」ともいわれており、5年生存率はステージ別にみても、早期であれば90%程度、ステージ3の進行がんであってもその殆どが治療によって対処が出来ることとされています。

しかし、ステージ4まで進行してしまうと生存率は劇的に下がり10%台に落ちてしまいます。そのため早期発見・早期治療が非常に重要です。

大腸がんのステージ別5年相対生存率



※公益財団法人 がん研究振興財団「がんの統計'15」全国がん(成人病)センター協議会加盟施設における5年生存率(2004~2007年診断例)より引用改変

血液検査で大腸がんのリスクを知る

血液検査で簡単に調べることが可能です。

大腸がんのリスク検査 Cologic™検査の流れ

① 受診予約の実施

検査の予約・申し込みをします。

② 採血

採血による検査を行います。

③ 検査データ解析

専門の検査機関で、解析を行いリスクの判定を行います。

④ 結果報告書の提供

約4週間後、受診した医療機関より、結果報告書が提供されます。必要に応じて精密検査の実施などをご確認ください。

受診をご希望の方は、
スタッフにお申し付けください。